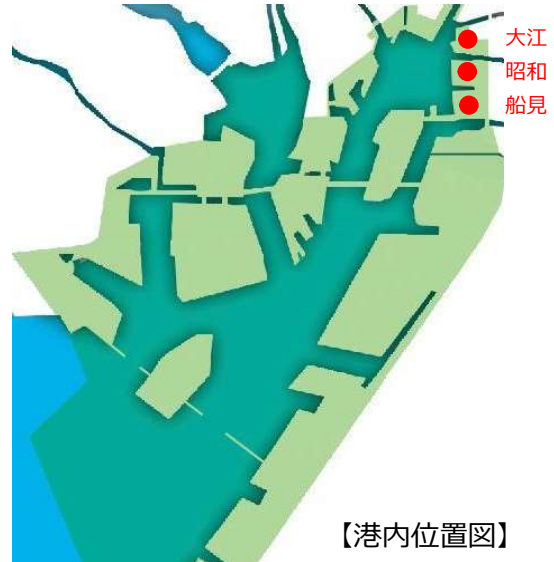


新たな役割を担う「内港地区」

大江・昭和・船見ふ頭



【港内位置図】

大江ふ頭

輸送機器産業の成長を支えた重量物取扱基地
新型旅客機の主翼が「シーアンドエア」で米国へ

名古屋港は、戦後背後地で急速に発展した鉄道車両、航空機、自動車などの輸送機器産業の製品輸出を支えてきましたが、当初は重量物を専門に扱う岸壁がありませんでした。そこで輸送機器製品輸出のさらなる増大に対応するため、東部の工業地帯に近く、直背後にも機械工場が密集していたこのふ頭に重量物専用の岸壁を整備しました。

現在、その岸壁に面する三菱重工業(株)大江工場では、米国ボーイング社の旅客機 B787 の主翼部分の製造が行われています。約 30m の主翼の輸送には、中部国際空港まで船で運び、米国の組立工場に専用貨物機で空輸する「シーアンドエア」方式を採用。空港との相乗効果発揮のモデルケースとして注目されています。

また、大江ふ頭にある 2 バースのうち 1 バースは、震災時の緊急物資輸送基地として利用できるよう延長 185m の耐震強化岸壁となっています。

なお、当岸壁は建設から 40 年以上が経過し施設の損傷劣化が著しいことから、平成 26 年度から岸壁改良工事に取りかかり、令和 2 年度に完了しました。



シーアンドエア概略



主翼の入ったコンテナを運搬する台船

アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区

港内をはじめ、中部地域には航空宇宙産業が集積していることから、平成 23 年に愛知と岐阜の区域が国際戦略総合特別区域に指定され、その後、長野、静岡、三重にも区域が拡大されました。今後も中部地域は、航空宇宙産業の集積と生産能力の拡充に地域を挙げて取り組み、アメリカのシアトル、フランスのトゥールーズと肩を並べる航空宇宙産業の世界三大拠点の形成に向け、さらなる飛躍を目指します。

◎名古屋港内における主な指定区域

三菱重工業(株)大江工場周辺地区

三菱重工業(株)飛島工場地区

川崎重工業(株)名古屋第一工場地区

川崎重工業(株)名古屋第二工場地区



昭和ふ頭

リサイクル産業の進出で循環型社会の構築にも貢献

古くから重化学工業、自動車製造関連の工場などが立地する昭和ふ頭。近年では港の広いスペースを活用し、循環型社会に貢献するリサイクル産業の進出も活発です。市内から集められた事業系廃棄物や、家電リサイクル法などの対象製品がここで分別された後、リサイクル素材として再び社会へ送り出されています。自動車取引の活況を反映して自動車部品のリサイクル会社も進出しています。

船見ふ頭

全国屈指の陶磁器生産を支える原料取扱基地

名古屋港の背後には瀬戸、多治見、常滑など、全国屈指の窯業原料生産地が控え、陶磁器生産が盛んです。ここ船見ふ頭には、ガラスの原料となるけい砂や土石などの窯業原料を効率的に取り扱うことができるように窯業原料取扱基地が整備されています。基地内には貯蔵倉庫も配置され、全国の陶磁器生産地域への原料の積み出しも活発に行われています。

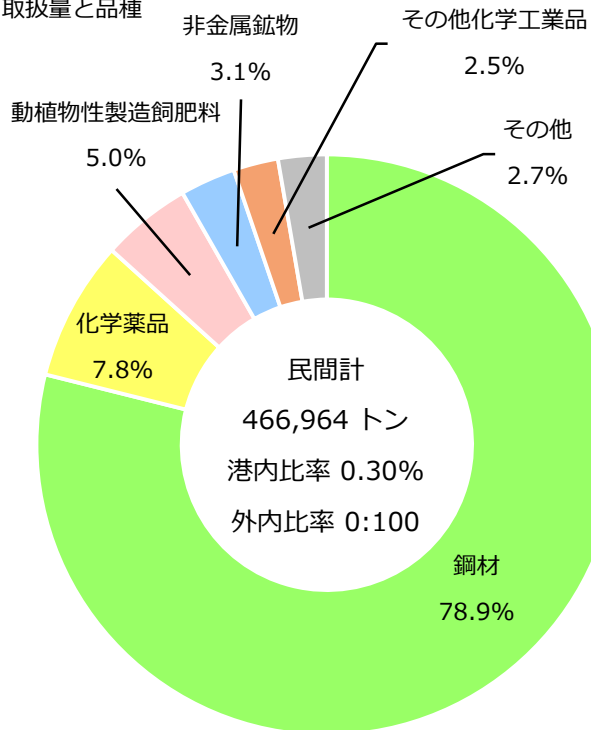
エリア基本データ

ふ頭名称	大江, 昭和, 船見
旧名称	6号地, 7号地, 8号地
臨港地区面積	35.9ha, 50.1ha, 67.3ha
埋立完成時期	大江 大正 9.7.20~昭和 51.4.26 昭和 大正 15.7.21~昭和 62.11.7 船見 昭和 3.3.31~昭和 48.8.21
バース水深	大江 9~10m 昭和 2.4~7.3m 船見 4~9m

民間計（大江・昭和・船見ふ頭周辺）

係留隻数 465隻

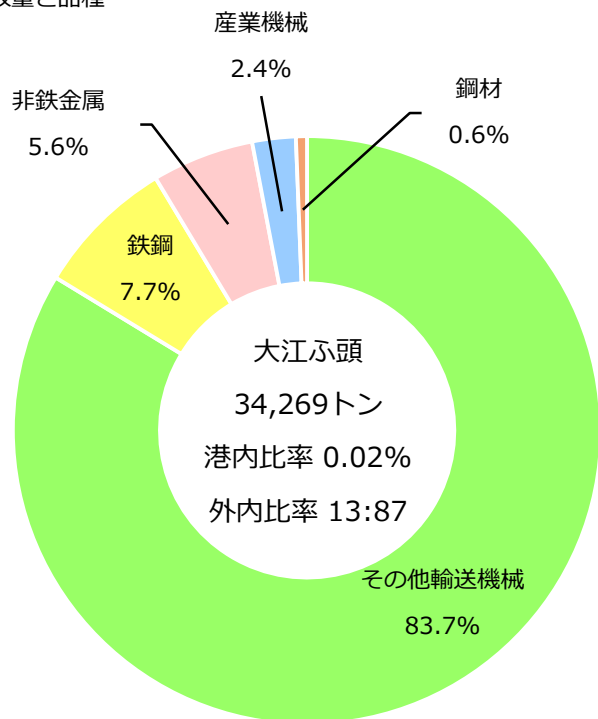
取扱量と品種



公共岸壁（大江ふ頭）

係留隻数 755隻

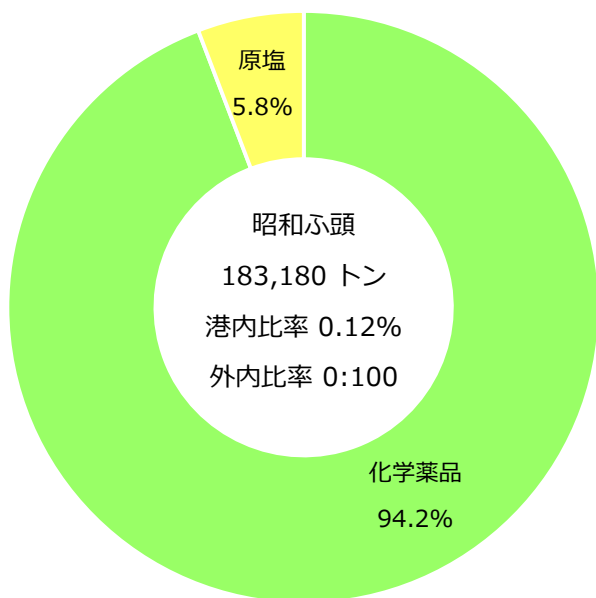
取扱量と品種



公共岸壁（昭和ふ頭）

係留隻数 442隻

取扱量と品種



公共岸壁（船見ふ頭）

係留隻数 709隻

取扱量と品種

